

令和8年2月13日 広報プロモーション課
送付文書 計4枚

報道機関 各位

【申込不要】3月1日(日)新編立川市史関連講演会を開催 「鷹場と玉川上水からさぐる江戸時代の砂川」

**近年の調査が進んだことで明らかになった
「初出し」の内容も披露予定！**

本講演会では、3月末に刊行する『新編立川市史 資料編
近世2』の成果の一部についてご紹介します。
本市の歴史的変遷や先人たちの暮らしぶりが伝わり、
まちへの愛着が一層深まる機会になれば光榮です。



現在の玉川上水



鷹場杭
(立川市歴史民俗資料館蔵)

プログラム
※時間は予定。休憩、質疑応答あり。

- 13:05～ プロローグ
砂川家文書調査とその成果について**
■講師 富善 一敏(とみせん かずとし)
東京大学経済学部資料室 学術専門職員／近世部会 部会長
- 13:25～ 第1部
尾張藩の鷹場と砂川村
一鷹場預り案内役を中心にしてー**
■講師 山崎 久登(やまざき ひさと)
東京都立深沢高等学校 主任教諭／徳川林政史研究所 特任研究員
／近世部会 複集委員
- 14:30～ 第2部
砂川家文書からみた上水見廻り役の職務**
■講師 山本 俊(やまもと すぐる)
藤市立歴史民俗資料館 学芸員／近世部会 特定部会委員

**鷹場と
玉川上水からさぐる
江戸時代の砂川**

新編立川市史関連講演会

申込不要・参加費無料

**「軍都 立川の前線と統後
一砂川村・立川市の公文書から」**

第二次世界大戦末期、現在の立川市に合併する前の砂川村と立川市には、約4万人が暮らしていました。同じ頃、地域には立川飛行場や陸軍関連施設、軍需工場があり、米軍の空襲目標となっていました。今回開催するパネル展では、当時の砂川村と立川市の公文書などの画像を展示し、戦時下の村と市、および軍との関係をご紹介します。

■会期 令和8年2月25日(水)～3月11日(水)
(会期時間: 9:00～17:00)

■会場 立川市役所1階 多目的プラザ(立川市泉町1156-9)

令和8年3月1日(日)
13:00～16:00
開場 12:30(手話通訳あり)

女性総合センター・アイム 1階ホール
定員100名様(当日先着順)



立川市曙町2-36-2
立川駅北口から徒歩4分

※施設の専用駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

主催・お問い合わせ
立川市文化スポーツ部 市史編さん室
電話: 042-523-2111(内線4044)
Eメール: chikibunka-t@city.tachikawa.lg.jp



→立川市史編さん事業の
詳細はこちら

▲新編立川市史関連講演会ポスター

■講演会の内容

本講演会では、2026年3月末に刊行する『新編立川市史 資料編 近世2』の成果の一部について3名の有識者が登壇します。近年の調査が進んだことで明らかになった「初出し」の内容も披露する予定です。

江戸時代の砂川村は、多摩地域の村々とともに「鷹場」（領主が鷹狩りをする場所）に設定されていました。また江戸の町や多摩地域の村にとって貴重な水源である玉川上水が村の中央を東西に貫き、その恩恵を受けるとともに管理にもかかわっていました。このような特徴を持つ砂川村は、多摩地域の中でどのような役割を果たしていたのでしょうか。

本講演を通じて、立川市だけではなく多摩地域の歴史的変遷や先人たちの暮らしぶりを多くの方々に知っていただき、地域への愛着が一層深まる機会になれば光栄です（女性総合センター・アイム1階ホールにて開催）。

また、2月25日（水）から3月11日（水）までパネル展「軍都立川の前線と銃後—砂川村・立川市の公文書から」を立川市役所にて開催します。

メディアの皆様におかれましては、ぜひ、多摩地域の歴史への関心を広めていただきたく、事前告知および当日の取材に足をお運びいただけますよう、ご協力のほどお願い申し上げます。（詳細は「別添案内」をご参照）

以下の市ホームページより、市史編さん事業や最新情報がご覧になれます。

http://www.city.tachikawa.lg.jp/chiikibunka/sisi/hensanshitu/shishi_top.html



←こちらからも
アクセスできます。

【問い合わせ】

立川市文化スポーツ部 市史編さん室

TEL 042-506-0021（直通）

Eメール : chiikibunka-t@city.tachikawa.lg.jp

新編立川市史関連講演会

鷹場と玉川上水からさぐる

江戸時代の砂川

申込不要・参加費無料

現在の玉川上水

プログラム

※時間は予定。休憩、質疑応答あり。

13:05～ プロローグ

砂川家文書調査とその成果について

■講師 富善 一敏 (とみぜん かずとし)

東京大学経済学部資料室 学術専門職員／近世部会 部会長



13:25～ 第1部

尾張藩の鷹場と砂川村

—鷹場預り案内役を中心にして—

■講師 山崎 久登 (やまざき ひさと)

東京都立深沢高等学校 主任教諭

／徳川林政史研究所 特任研究員／近世部会 編集委員

14:30～ 第2部

砂川家文書からみた上水見廻り役の職務

■講師 山本 俊 (やまもと すぐる)

蕨市立歴史民俗資料館 学芸員／近世部会 特定部会委員

令和8年3月1日(日)

13:00～16:00

開場 12:30 (手話通訳あり)

女性総合センター・アイム
1階ホール

定員100名 (当日先着順)



主催・お問い合わせ

立川市文化スポーツ部 市史編さん室

電話：042-523-2111(内線4044)

Eメール：chiikibunka-t@city.tachikawa.lg.jp



立川市史編さん
事務の詳細は
こちら→

鷹場と玉川上水からおぐる江戸時代の砂川



本講演会では、3月末に刊行する『新編立川市史 資料編 近世2』の成果の一部についてご報告します。江戸時代の砂川村は、多摩地域の村々とともに「鷹場」(領主が鷹狩りをする場所)に設定されていました。また江戸の町や多摩地域の村にとって貴重な水源である玉川上水が村の中を通り、その恩恵を受けていました。このような特徴を持つ砂川村は、多摩地域の中でどのような役割を果たしていたのでしょうか。

近年の調査が進んだことで明らかになった「初出し」の内容もご紹介する予定です。

13:05～ プロローグ 砂川家文書調査とその成果について



■講師 富善 一敏 (とみぜん かずとし)

東京大学経済学部資料室 学術専門職員／近世部会 部会長

令和4年(2022)から開始された砂川家文書調査の方法とその成果について述べ、新しく発見された史料の代表として万延元年(1860)の砂川村大蟻(おおのぼり)をご紹介します。

13:25～ 第1部 尾張藩の鷹場と砂川村 —鷹場預り案内役を中心にして—



■講師 山崎 久登 (やまざき ひさと)

東京都立深沢高等学校 主任教諭／徳川林政史研究所 特任研究員
／近世部会 編集委員

本講演では、尾張藩の鷹場が砂川村の人々の生活にどのような影響を与えていたのかを見ていきます。特に「鷹場預り案内役」という人々が、地域の中で果たした役割がポイントになります。

14:30～ 第2部 砂川家文書からみた上水見廻り役の職務



■講師 山本 俊 (やまもと すぐる)

蕨市立歴史民俗資料館 学芸員／近世部会 特定部会委員

砂川村の村野家は、文政元年(1818)から幕末に至るまで、「上水見廻り役」と呼ばれる玉川上水の管理を務めていました。彼らの記録から、その活動の一端を概観します。

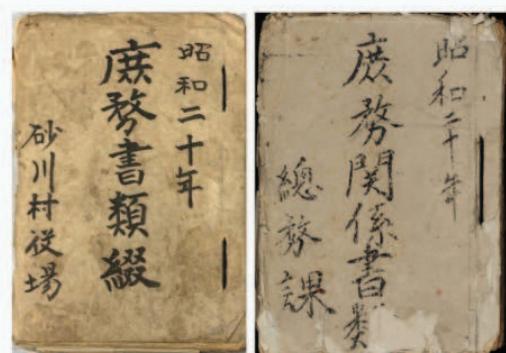
「軍都 立川の前線と銃後 — 砂川村・立川市の公文書から」

関連展示のご案内

第二次世界大戦末期、現在の立川市に合併する前の砂川村と立川市には、約4万人が暮らしていました。同じ頃、地域には立川飛行場や陸軍関連施設、軍需工場があり、米軍の空襲目標となっていました。今回開催するパネル展では、当時の砂川村と立川市の公文書などの画像を展示し、戦時下の村と市、および軍との関係をご紹介します。

■会期 令和8年2月25日(水)～3月11日(水)
(会期時間: 9:00～17:00)

■会場 立川市役所1階 多目的プラザ(立川市泉町1156-9)



昭和20年(1945)の砂川村と立川市の公文書(立川市歴史民俗資料館蔵)